

芸術科・音楽Ⅰ

教 科	芸 術 科	目 音 楽 Ⅰ	ク ラ ス	1 年 全 ク ラ ス
			使用教科書	高 校 音 楽 Ⅰ 高 校 生 の 音 楽 Ⅰ
科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。			
科目の評価の観点及び趣旨	①音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心を持ち、主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。【関心・意欲・態度】			
	②音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら音楽表現を工夫し、表現意図をもっている。【音楽表現の創意工夫】			
	③創意工夫を生かした音楽表現をするための技術を身につけ、創造的に表している。【音楽表現の技能】			
	④音楽を形作っている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。【鑑賞の能力】			

学 期	月	学習内容	学習の目標	主な評価規準 ①～④は上記「科目の評価の観点及び趣旨」の番号に対応	●評価のための資料 ○使用楽曲、教材等
1	4	自分という素晴らしい楽器を見つけよう	<ul style="list-style-type: none"> 正しい発声のフォームについて考え、実践できるようにする。 校歌についての理解を深め、誇りを持って歌う。 多様な声の世界について学習し、その特徴について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ①クラス全体での合唱のよさに関心を持って歌おうとしている。 ③発声、姿勢や身体を使い方などを身につけ、創造的に表している ①民族や音楽のジャンルの違いによる発声の多様性に関心を持っている。 	●ワークシート、期末考査、実技試験
	5	ヨーロッパの音楽に親しもう (1) イタリアのカンツォーネ	<ul style="list-style-type: none"> カンツォーネというジャンルが何かを学ぶ。 イタリア語の発音と特徴について学習する。 「O sole mio」をイタリア語で歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> ②楽曲のリズム、旋律、強弱を知覚し、歌詞が表わす心情、イタリア語の言葉の特性と関わらせて感じとり、表現意図を持って歌っている。 ③声色に必要な発声、言葉の発音、呼吸法を身につけ、創造的に表している。 ①曲想と歌詞が表わす情景や心情、楽曲の背景、イタリア語の言葉の特性とのかかわりに関心を持って歌っている。 	●ワークシート、期末考査、実技試験
	6	ヨーロッパの音楽に親しもう (2) ドイツリート	<ul style="list-style-type: none"> ドイツ語の発音と特徴について学ぶ 「Heidenröselein」をドイツ語で歌唱し、三部合唱に挑戦する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②楽曲のリズム、旋律、強弱を知覚し、歌詞が表わす心情をドイツ語の言葉の特性と関わらせて感じとり、表現意図を持って歌っている。 ③声色に必要な発声、言葉の発音、呼吸法を身につけ、創造的に表している。 ①曲想と歌詞が表わす情景や心情、楽曲の背景、ドイツ語の言葉の特性とのかかわりに関心を持って歌っている。 	●ワークシート、期末考査、実技試験
	7	ヨーロッパの音楽に親しもう (3) 宗教音楽	<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパにおけるキリスト教と音楽の関係について学ぶ。 3名の作曲家が作曲した「Requiem」の中から作曲家の作風が顕著に表れている楽曲を鑑賞し、その特徴を感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ④各レクイエムの楽曲を特徴づけている要素を知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気などを感受しながら、それぞれの作品のよさや美しさを創造的に味わって鑑賞している。 ①レクイエムの歌詞の成立の背景、楽曲の文化的、歴史的背景、作曲者による表現の特徴に関心を持ち、主体的に鑑賞している。 	●ワークシート、期末考査 ○
1		リズムに乗ろう	<ul style="list-style-type: none"> 音価と記譜の関係を学び、練習楽曲を用いて体で覚える。 リズムアンサンブルを創作し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ②リズムを知覚し、それらの働きが生み出す雰囲気などを感受している。 ④他のグループが創作した楽曲の特徴を理解し、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。 ①音価と記譜の関係に関心を持ち、リズムアンサンブルの創作に主体的に取り組んでいる。 	●ワークシート、ノート、期末考査 ○ワークシート
	2	8	和楽器に親しもう	<ul style="list-style-type: none"> 箏、三味線、篠笛の基本的な構造や奏法 	③和楽器の音色を生かした演奏をするための基本的な技能を身につけている。

	9		を学ぶ。 ・涙そうそうを合奏し、和楽器の響きを味わう。	②和楽器の音色や楽曲の特徴を知覚し、創造的に表現しようとしている。 ①和楽器の音色や特徴的な奏法に関心を持って演奏している。	○箏を弾こう
	10	諸外国の音楽	・世界中の楽器について学び、その特徴や地域性について学ぶ。 ・世界中の音楽を鑑賞し、その特徴や地域性について学ぶ。	④諸外国の楽器や音楽の特徴を理解し、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め鑑賞している。 ①諸外国の楽器や音楽に関心を持ち、その特徴を味わって鑑賞しようとしている。	●ワークシート、期末考査 ○諸外国の楽器や音楽の映像資料
	11	ギターを楽しもう	・ギターの基本的な構造や奏法について学習する。 ・簡単なコードについて学習し、弾き歌いに挑戦する。 ・タブ譜を読めるようにし、簡単な楽曲を演奏できるようにする。	③ギターの音色や奏法の特徴を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけている。 ①ギターの音色や奏法の特徴に関心を持ち、主体的にとり組んでいる。	●ワークシート、ノート、期末考査、実技試験
	12				
3	1	音楽と環境	・音楽が環境に与える影響について考察する。	④音楽が生み出す雰囲気を知覚、感受しながら、音楽が環境に与える影響を考察している。	●ワークシート ○ワークシート、映像資料
	2		・著作権について学習する。	①音楽が環境や社会に与える影響について関心を持ち、主体的に著作物を尊重する態度を持っている。	
	3	オペラの世界	・オペラの舞台裏や成り立ちを理解し、それらに関心を持ち、表現効果について考える。	④舞台芸術の特徴を理解し、楽曲や演奏を解釈したり、それらの価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め創造的に聴いている。 ①舞台芸術の特徴を理解し、イメージを持って鑑賞する学習に主体的に取り組んでいる。	●ワークシート ○映像資料

※和楽器のレンタル時期が確定していないため、内容が前後することがあります。

教科	芸術	科目	美術 I	担当クラス	1 学年全
				使用教科書	光村図書 美術 I
科目の目標		美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。			

評価の観点	記号	領域	評価規準	評価の対象
美術への関心・意欲・態度	関①	絵画 彫刻	対象や自己の内面に関わるものから主題を生成し、造形要素を工夫して構想を練ろうとする。	ワークシート または習作
	関②	〃	技法や材料の特性を生かし、主題を追求し表現しようとする。	
	関③	デザイン 映像メディア	与えられた条件や造形的な美しさや調和を基に主題を生成し、造形要素を構成しようとする。	
	関④	〃	技法や材料の特性を生かし、計画や手順を工夫しながら表現しようとする。	鑑賞や学習の様子 ワークシート
	関⑤	鑑賞	美術作品のよさや美しさ、その背景（作者や表現の工夫）に関心をもち、それを理解しようとしている。	
	関⑥	〃	日本及び諸外国の美術文化について理解しようとしている。	
	関⑦	共通	多様な表現方法や美術文化に関心をもち、主体的に表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	
発想や構想の能力	発①	絵画 彫刻	対象や自己の内面に関わるものから主題を生成している。	習作または 作品
	発②	〃	主題を効果的に表現するために造形要素を工夫している。	
	発③	デザイン 映像メディア	与えられた条件や造形的な美しさや調和を基に主題を生成している。	
	発④	〃	与えられた条件や造形的な美しさや調和を基に造形要素を構成している。	
創造的な技能	創①	共通	技法や材料の特性を理解し、それを生かして表現している。	作品
	創②	絵画 彫刻	表現したい意図を大切に、効果的な表現方法を創意工夫し、主題を追求している。	
	創③	デザイン 映像メディア	効果的な表現方法を創意工夫し、制作の計画や手順を吟味しながら表現している。	
鑑賞の能力	鑑①	鑑賞	美術作品のよさや美しさを感じ取り、その背景（作者や表現の工夫）を理解している。	ワークシート
	鑑②	〃	日本及び諸外国の美術文化について、表現の特質や様式、表現方法について理解している。	

年間学習計画と評価の計画

月	時間	教材名	学習内容	種別	学習活動の目標活動	評価規準
4	2	鑑賞と講義：美術とは何か	・鑑賞と演習 ・オリエンテーション	全科共通	・美術作品のよさや美しさ、その背景（作者や表現の工夫）に関心を持ち、それを理解しようとしている。	関⑦
	2	素描1：立方体演習	①スケルトン立方体の制作と鉛筆素描		・技法や材料の特性を理解し、それを生かして表現しようとする。	創①
5	10	素描2：鉛筆デッサン	①クロッキー ②基礎概念の学習（プレゼン＋プリント） ③描画：アタリ出し ④描画：モデリング、陰影の描画：ソフト ⑤描画：モデリング、陰影の描画：ハード ⑥描画：描き込み		・技法や材料の特性を理解し、それを生かして表現しようとする。 ・主題を効果的に表現するために造形要素を工夫しようとする。 ・表現したい意図を大切に、効果的な表現方法を創意工夫し、主題を追求しようとする。	創① 発① 創②
6 7	12	トーンカラーを使った平面構成	①教材ガイダンスと色彩論 ②制作 ・補色パート ・グラデーションパート ・春パート（ライトトーン系の構成）・直線使用 ・秋パート（ディープトーン系の構成）・直線使用 ・レタリング	機械科 環境化学科 情報電子科 電気科	・与えられた条件や造形的な美しさや調和を基に主題を生成し、造形要素を構成しようとする。 ・与えられた条件や造形的な美しさや調和を基に造形要素を構成しようとする。 ・効果的な表現方法を創意工夫し、制作の計画や手順を吟味しながら表現している。	関③ 発④ 創③
8 ～ 10	22	オブジェ制作（キラキラお弁当）	①資料講読と講義「食の安全と健康」 ②アイデア・スケッチ ③箱の制作 ④粘土を使ったモデリング ⑤彩色（アクリルガッシュ） ⑥仕上げ処理（接着とニス塗布） ⑦鑑賞／現代美術史講義		・与えられた条件や造形的な美しさや調和を基に主題を生成し、造形要素を構成しようとする。 ・技法や材料の特性を理解し、それを生かして表現しようとする。 ・主題を効果的に表現するために造形要素を工夫しようとする。 ・表現したい意図を大切に、効果的な表現方法を創意工夫し、主題を追求しようとする。	関③ 創① 発① 創②
8 ～ 10	22	パースを使った平面構成	①平面構成について（＋課題の提示） ②鉛筆による分割と明度計画 ③配色計画（色鉛筆使用） ④彩色（アクリルガッシュ使用）		建築科	・与えられた条件や造形的な美しさや調和を基に主題を生成し、造形要素を構成しようとする。 ・与えられた条件や造形的な美しさや調和を基に造形要素を構成しようとする。 ・効果的な表現方法を創意工夫し、制作の計画や手順を吟味しながら表現している。
11 ～ 3	22	ゴッホ作品模写	①フィンセント・ファン・ゴッホについて ②下地塗り ③トレース ④アンダペインティング ⑤オーバーペインティング	機械科 環境化学科 情報電子科 電気科	・作品のよさや美しさ、その背景（作者や表現の工夫）に関心を持ち、それを理解しようとする。 ・技法や材料の特性を理解し、それを生かして表現しようとする。 ・主題を効果的に表現するために造形要素を工夫しようとする。 ・表現したい意図を大切に、効果的な表現方法を創意工夫し、主題を追求しようとする。	関⑤ 創① 発① 創②
11 ～ 3	22	静物着彩	①クロッキー ②7分立て鉛筆デッサン ③着彩（テーマ：明から暗へ） ④合評会	建築科	・技法や材料の特性を理解し、それを生かして表現しようとする。 ・主題を効果的に表現するために造形要素を工夫しようとする。 ・表現したい意図を大切に、効果的な表現方法を創意工夫し、主題を追求しようとする。	創① 発① 創②

家庭・家庭基礎

福島県立福島工業高等学校

学年	2	学 科	全	使用教科書	家庭基礎（教育図書）	単位数	2
科 目 の 目 標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。						
科 目 の 評 価 の 観 点 の 趣 旨	<p>1. 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。【関心・意欲・態度】</p> <p>2. 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などについて生活の充実向上を図るための課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し、工夫を創造する能力を身につけている。【思考・判断・表現】</p> <p>3. 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する技術を総合的に身につけている。【技能】</p> <p>4. 人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者との関わりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識を総合的に身につけている。【知識・理解】</p>						
学 期	月	学 習 内 容	学 習 目 標	◆ 主 な 評 価 規 準 【 評 価 の 観 点 】	● 評 価 方 法 ○ 資 料 等		
一 学 期	4	家庭科を学ぶにあたって 第1部 第1章 人の一生と家族 第2部 第2章 衣生活 くらしのなかの「衣」 ・基礎縫い ・巾着バッグ製作	・学習の意義や内容・評価について理解する。 ・家族・家庭の働きを知る。 ・基礎縫いの手法を身につける。 ・被服製作に関する基礎的基本的な技術を習得するとともに、製作を通じ、物を大切に作る気持ちを育む。	◆家族と社会との関わりから自分を見つめ将来の家族や求められる家族像、家族の課題について考える。【関心・意欲・態度】 ◆基礎縫いの手法を被服のどの部分に活かせるか理解する。【技能】【知識・理解】 ◆布・用具を適切に扱うことができる【技能】【知識・理解】	○ プリント ●基礎縫い用布 ●巾着バッグ用布		
	5						
	6	・自分らしさの表現 第2部 第1章 くらしのなかの「食」 ・現代の食生活	・既製服の選び方がわかり被服の管理ができる。 ・現代の食生活の問題点に気づき、健康な食生活を送るために注意する点を理解する	◆被服をTPOに応じ適切に選択管理できる。【知識・理解】 ◆日常の食生活を振り返り、今後の食生活のあり方を考える。	●ワークシート ●ワークシート ○VTR ●定期考査		
二 学 期	7						
	8 9 10 11	・調理の基本 調理実習Ⅰ～Ⅳ	・日常の食生活や実習で用いる食品の栄養的特質と調理上の性質について理解し、調理法の要点と技術を身につける。	◆実習の内容を理解し、自ら活動し調理することができる。【関心・意欲・態度】 ◆結果をワークシートに記入し、家庭生活に活かすことができる。【技能】【知識・理解】	●ワークシート		
	12	・健康的な食生活	・健康的な食生活を営むため栄養的特徴、食品の安全と衛生について理解する。	◆安全で衛生的に食生活を営むことができるよう家庭での調理の実践につなげる。【知識・理解】	●ワークシート ○VTR ●定期考査		
三 学 期	1	第2部 第4章 消費生活	・消費者問題について考えその解決方法について理解する。	◆自分が一消費者であることを自覚し、さまざまな消費者問題に適切な判断ができるようになる。	●ワークシート ○VTR		
	2 3	第1部 第2章 保育	・乳幼児保育の重要性を理解する。	◆生命の尊さ、子育ての意義について理解する。【知識・理解】【思考・判断・表現】	●ワークシート ●定期考査		